

かまどベンチ火起こし体験(キャンプ事前学習)と防災学習

芦原地域生活文化問題協議会

事業費 125,288 円
助成額 100,000 円

●当初の課題・事業目的

地域内には大規模住宅が多く建設され、新たに住民となった方々が多く、子育て世代においては、地域内は3小学校区に分かれており、近隣でありながらコミュニケーションや情報が分散する傾向にある。「同じ地域に暮らす者同士」として交流していく機会を増やすことが課題であると考え。市立体育館分館グラウンドのリニューアルに伴い新たに設置された非常用設備を活用し、救援活動拠点となる地域内の施設を地域の住民に広く知ってもらい、体験を通して各家庭で「災害への備え」について話し合う機会を提供する。



会長 山下 秀春

●事業概要

<実施日および実施場所> 2018年7月21日(土) 中央体育館分館グラウンド・総合教育センター西館

<参加者数> 129名

<事業内容>

- ① 非常用設備として設置された「かまどベンチ」を利用して火起こし体験
- ② 非常時の備えについて学ぶ体験(講師:防災啓発課 岡田)
グラウンドリニューアルに伴い設置された非常用設備の紹介(講師:施設再配置課 松浦)
- ③ 非常食の試食(カレーライス)
- ④ 消火体験 水消火器や水を入れたビニール袋を使用(指導:西宮市消防団安井分団)
- ⑤ 水遊び体験 水鉄砲によるゲーム・シャボン玉遊び



●事業の成果・工夫した点

<事業の成果>

○アンケートによると「非常用設備が設置されたことを知らなかった」、「非常時の備えについて家庭で話し合いたい」という回答が多かった。事業の目的を一応達成したと考える。

<工夫したこと>

○できるだけ多くの方々に参加してもらえよう広報活動に注力。他の地域団体等の協力を得て近隣の集合住宅へポスティングを実施。

○事業当日の内容について

複数の内容を盛り込むため、参加者が退屈しないようスケジュール設定を行った。

●苦勞した点・今後の課題

<苦勞した点>

○地域内の自主防災会との連携がとれず、協力を得られなかった。

○助成認定→開催日までの期間が短く、開催日直近の広報活動となった。また、事前準備作業も急ピッチで行うこととなった。

○今年は酷暑となり、熱中症による事故が報道される中での実施のため、応急処置が可能なよう対応を検討し準備した。

<今後の課題>

○準備期間や季節柄を考え、実施時期を検討する必要がある。

●参加者のコメント

○とても楽しくて参考になった。参加してよかった。いろいろ勉強になった。(参加者)

○小学校や中学校でもこのようなイベントを授業の一環として取り入れてほしいと思った。(参加者)

○これから家族で防災について考えてみたいと思います。(参加者)

○もう少し涼しい時期にやってほしい。暑かった。(参加者・スタッフ)

○当日、準備のために電源を取るイベント盤の鍵が(鍵が多数あり)開けられなかった。実際の非常時でも同じことが起こると考えると、設備を定期的に使ってみることは大切だと思った。(スタッフ)